

第2回三田市聖苑に係る指定候補者選定委員会 議事概要

会議の名称	第2回三田市聖苑に係る指定候補者選定委員会
会議の日時	令和6年10月11日(金) 午後1時30分～午後3時35分
会議の場所	市役所本庁舎 303A 会議室
出席した委員の氏名	赤澤委員長、大森副委員長、渡部委員、吉田委員、横溝委員
事務局	市民生活部 辻下次長 環境政策課 古家課長、寺嶋係長、樋口
傍聴者の人数	0名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 審査方法について 3. 書類審査、意見交換 4. プレゼンテーション・ヒアリング審査の実施 5. 評価及び指定候補者の選定について <ol style="list-style-type: none"> ① 評価(採点)結果・講評(選定理由のまとめ) ② 指定候補者の決定 6. 閉会
会議の概要	・申請団体の書類審査、プレゼンテーション・ヒアリング審査を実施、指定候補者の選定を行った。
公開・非公開の区分	一部非公開(「申請書類等の内容審査」、「評価及び指定候補者の選定」にかかる会議の部分については非公開)
使用した資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 次第 ➤ 【資料1】審査方法について ➤ 応募者指定管理者申請書(副本) ➤ 選定評価表

(1) 開会

(2) 審査方法について

(事務局) 【資料1】審査方法について を用いて説明

(3) 書類審査、意見交換

(事務局) 募集要項に規定する申請資格を満たさない団体及び、選定委員会に審査に付すことに際しての欠格事項の有無について、提出書類を点検したところ、不備はなかったことを報告
<委員間において提出書類の内容について意見交換(非公開審議)>

(4) プレゼンテーション・ヒアリング審査

・申請団体によりプレゼンテーション

申請団体:さんだ斎苑管理グループ(2団体によるグループ申請)

イージス・グループ有限責任事業組合(代表団体)、伸和サービス株式会社

・質疑応答

(委員) 当施設の指定管理者としてお世話になっているが、次期指定期間に力を入れたい事業や、今期課題を感じて次期の取組に反映しようと考えていることがあるか。

(申請団体) 施設の老朽化が進んでいるので、随時修繕費を使って対応していきたいと考えている。
葬儀社アンケートから火葬予約システムのニーズが高いことがわかった。指定管理の新たな業務として加わる火葬予約をいかに円滑に導入できるかが課題となってくると考えている。

(委員) 人員配置について、経験年数が短い人が多いので、人の入れ替わりが多いのかと推測するが、もし人が急に抜けた場合は、新しい人を探すのか、グループ内から異動をするのか。

(申請団体) 経験年数が5年以下と短いのは、この指定管理を受けた時に地元人材を採用したから。当初は、グループ本部職員が一緒に入っていて、人材が育ってから抜けるという形をとっている。内部テストで合格ができるまでは、本部職員がプラス1名いる。職員が急にやめた場合は、グループ内から応援人材がくる体制をとる。

(委員) スタッフの対応が悪ければ、利用者の満足度は下がる。どのようなところに気を付けているか。

(申請団体) 研修などを実施し、職員の資質向上をする。三田市聖苑で採用になった職員が、スキルを上げて、今は他の斎場で責任者になっている事例もある。

(委員) 火葬予約システムは個人で予約ができるのか。

- (申請団体) 事前にIDとパスワードを発行するため、予約できるのは葬祭業者。死産児等、個人の予約は聖苑で電話対応をする。
- (委員) 修繕費を増額しているが、修繕費の考え方は。経費節減の中で、修繕費で節減するということでは、こちらとしては困る。
- (申請団体) 火葬炉は、火葬時の1000℃から、骨上げ時には250℃まで急激に下げる必要があり、痛む頻度が激しい消耗品である。すぐヒビが入り、そこに体液が入って臭いが出たりもする。日々モルタル補修など小修繕をすることで、大規模修繕に繋がらないという考え方。現指定管理期間5年の業務の積み上げで、必要と判断した修繕費を増額対応した。
- (委員) 小修繕をすることでどれくらいの大規模修繕の額が節減できたか具体的な数字がわかるか。
- (申請団体) 具体的な数字を出すのは難しい。火葬炉メンテナンス研修を実施しており、通常は火葬炉メーカーに頼むような修繕を、日々職員が小修繕しており、大規模修繕に繋がらないという努力をしている。グループ内でみても、三田市聖苑のスタッフの修繕スキルは高いと感じる。
- (委員長) 予約システムのメンテナンスで使えないことがあるか。ハッキングなど情報漏洩の対処方法は。
- (申請団体) 年に1回、深夜10分ほどメンテナンスが発生。グループが契約しているシステムは今のところ情報漏洩など大きなトラブルはなく、堅牢なクラウドシステムであると聞いている。また、サイバーリスク保険にも加入している。不具合が起きた場合は、予備サーバーを使えば問題ない。
- (委員) 予約システムについて、無駄な仮押さえなど不正予約が分かった場合の対応は。また、その不正等の防止を、利用者に事前周知してほしいと思う。
- (申請団体) 不正予約しているかは、その予約時点ではわからない。通常、ご遺族の都合などで日程変更などはよくあり、大体20%くらいのキャンセル率。とりあえず仮予約を多くして、いらぬ分をキャンセルするなどしていれば、キャンセル率は50%くらいになるかと思われる。あまりにひどいケースであれば、市と協議して、個別指導するのか、書類指導なのか訪問指導なのかを決めていきたい。事前周知については、システム本稼働前に、説明会を催すので、その場で周知・指導していく。
- (委員) 残骨灰収集について、分別作業や最終埋葬地の現地確認に市の担当者が同行することはできるか。

(申請団体) 中間処理は何日もかけて行うので、事前に連絡をいただければ同行して確認いただくことは可能。最終埋葬地については、年1回供養祭をしており、そちらに職員も出席するので一緒に来てもらうこともできる。供養祭に出席している自治体もある。

(委員長) 残骨灰の必要経費は、現在委託している回収業者が出した額かと思うが、市が複数社に見積徴取をして業者を指定することもできるか。

(申請団体) 市より業者指定があれば、そちらに委託する。当グループが請け負っている斎場は44箇所あるが、その中でこちらに選定権利がある場合は、同じ業者に委託している。グループで委託するので、複数の斎場をまわることができ、回収ルート工夫などで回収費用などを抑えることができる。

(委員長) 利用者満足度の目標値について、利用者アンケートが90%、葬祭業者アンケート80%以上となっているが、この違いは何か。

(申請団体) 葬祭業者のアンケートは、何か不便はないですか?というような聞き方をしており、要望などが多くなる。利用者アンケートとは違い、ニーズを吸い上げるためのアンケートという位置づけであるため、目標値を変えている。

(5) 評価及び指定候補者の選定について

- ・評価(採点)結果・講評(選定理由のまとめ)
- ・指定候補者の決定

≪非公開審議≫

(6) 閉会